

◇題名：『もったいない-Mottainai-』文化の復活！！

◇目的；もったいないをキーワードに，社会全体が抱える問題をどのようにクリアできるかを考える。

◇内容；

(前提)

日本には、「もったいない」という発想が誰にでもある。

この「もったいない」をキーワードに、「もったいない」から、「ただ単に捨てるのは止めて，何か付加価値がつけられないか？」を発端に「新たな社会環境の形成」を考えた。

(施策)

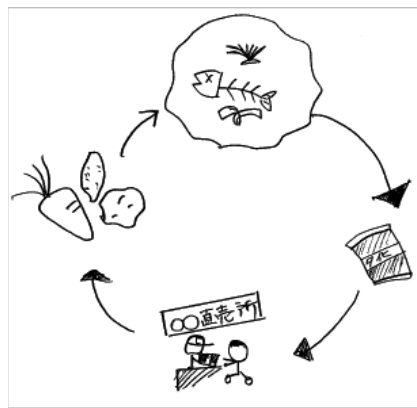
★施策① **各家庭から毎日のように排出される生ごみ。そのまま捨てるだけではもったいない！！**

各家庭において生ごみ処理機の設置の義務化（生ごみを完全堆肥化とする）

⇒ただ単に堆肥化するだけでは，取組みに対する意欲が沸かない。

そのため，堆肥ポイント制度を導入し，ある程度たまったら，生野菜と交換できる制度を作る。ちなみに，堆肥については地域の農産物直売所においてポイント化できるようにする。農産物直売所に集められた生ごみ堆肥は，農家へ格安で販売され，生野菜の栄養となり，熟した生野菜が消費者の元へ戻ってくる。これぞ循環型社会の形成へとつながる。

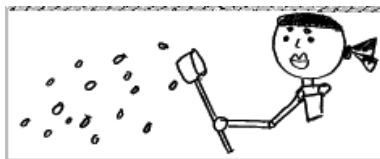
また，農産物直売所を利用することで，地域コミュニティの復活や地域活性化にも寄与できるものと考ええる。



★施策② **雨水をそのまま川に流下させてはもったいない！！**

各家庭において雨水貯留施設の完備

⇒雨水を利用した打ち水対策（これは各家庭の玄関先に，打ち水ロボットを設置します）によるヒートアイランド現象の軽減，畑や庭の掃除など，上水道レベルの質の高い水を利用しなくても良いものについては，雨水を利用する。雨水貯留施設については，ろ過装置を取り付けることで，飲めないけど使える程度の品質とする。



この雨水貯留施設の設置により期待されるのは，家庭光熱費の軽減が主に上げられる。

★施策③ **自分で出したモノもただ捨てるのはもったいない！！**

公共下水施設から合併浄化装置への転換

⇒自分で出した排便，浴槽や洗濯層からの水。これらについても，ただ捨てるのではもったいない。

排便については，施策①と同様に堆肥化。浴槽や洗濯層からの水については，ろ過した後，施策②へ移行。

★施策④ **取り組んだら取り組んだだけ何か優遇してほしい！**

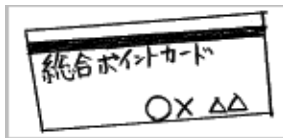
免許証や健康保険証の機能も有した新たな身分証明カード制度の新設

⇒社会全体の感覚として、Give&Take の精神がある。本来は、「差し上げます、頂きます」が正しいのだろうが、現在は「取り組むなら、何を受け取れますか？」という感覚へと変化している。そのことから、世の中に「ポイント（付加価値）」というものが浸透しているのではないかと推測する。

なので、取り組んだ分については、各種ポイント制度の確立もあわせて行うべきであろう。施策①および施策③については、上記に述べたように「堆肥ポイント制度」とし、施策②については「水ポイント」とし、ミネラルウォーターとの引き換えを実現させる。

(最後に)

何でもかんでもポイント、ポイントっていう現在の情勢に関しては、時折違和感を覚えることもある。現にポイント制度は導入せず、あくまで現金還元という方針を打ち出している店舗なども存在するが、消費者に対して現金還元がどのように行われているかは、価格でしか判断できないのが実状である。



そのため、やはり町づくりに関してもポイント制度を有効に利用して、興味を持たせることから取り組めばよいのではないかと考える。

いっそのこと、銀行にポイント口座というものを作ってしまって、国民一人一人がポイントという新たな制度を用いてしまっても良いと考える。

---